

# 多面的・多角的な思考を促す 「特別の教科 道徳」（道徳科）の趣旨・内容を踏まえた授業の展開

— 「熊本の心」の効果的な活用や指導方法の工夫改善を通して—

指導主事 梶原 圭一

研究協力員 宇城市立豊川小学校

教諭 高原 真由美

南小国町立南小国中学校 教諭 田上 茉依

## 1 研究主題について

### (1) 道徳の教科化に向けた本県の動向

道徳教育の実質化及びその質的転換を図るため、文部科学省においては、平成27年3月に、これまでの「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」と位置付けるための学習指導要領等の一部改訂を行った。小学校は平成30年度から、中学校は31年度から「特別の教科 道徳」となる。

本県では、学校関係者及び学識経験者から組織する「熊本県道徳教育推進協議会」からの意見を基に、平成28年度からの本県における「特別の教科 道徳」（道徳科）の実施に向けた方向性と提言をまとめ、県内すべての小・中学校の教員に対して示した。本県の方向性については、以下のとおりである。

（前段略）

県教育委員会としては、道徳の時間の教科化により道徳教育を一層充実させていくことは、子どもたちの人格を形成する上で極めて重要な意義をもつものと考えています。そこで、平成28年度から「特別の教科 道徳」（道徳科）の趣旨・内容を踏まえた授業の実施を推進することとし、  
（以下略）

※太字・下線は筆者が加筆

本研究を進めるに当たっては、道徳の教科化に向けた本県の流れを踏まえ、各学校や教職員の抱える課題の解決が図れるようテーマを設定し、実践研究を進めていくこととする。

### (2) 本研究の方向性について

平成27年7月に文部科学省より示された小・中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編では、特別の教科 道徳（以下「道徳科」という。）の目標を、以下のとおり規定した。

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

※（ ）は中学校の目標

今回の改訂で、道徳科の目標は「道徳性を養う」ための学習活動をさらに具体化して示されている。

道徳教育の質的転換を図るという今回の道徳の教科化の趣旨を踏まえれば、特に、学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが求められている。

本年度、県内の各学校で道徳科の趣旨・内容を踏まえた授業実践に取り組まれているが、道徳科の目標に新たに示された「物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える」という文言の具体的な捉え方や学習の在り方等についての問い合わせが大変多い状況にある。本研究においては、このことに関する一つの考え方や実践事例等を提案することにより、各学校が抱える課題の解決への一助としていきたい。

### (3) 道徳における「多面的・多角的な思考」とは

一般的には、「多面的」とは、学習対象が様々な面をもっていることを、「多角的」とは学習対象を様々な角度から考察し理解することを意味している。

実際の指導にあたっては、「多面的」と「多角的」は必ずしも明確に分けられるものではないため、道徳科の学習指導要領及び解説においては、「多面的・多角的に考え」とひとくくりで説明してある。

平成28年7月に道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議より出された『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)の中で、児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかを見取る基本的な考え方として、次のような例が示されている。

- 道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉えようとしている。
- 自分と違う意見や立場を理解しようとしている。
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場合において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

児童生徒をこのような多面的・多角的な思考に導く学習とするためには、例えば「他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する」活動や「道徳的価値を自分との関わりの中で深めていく」活動を積極的に取り入れていく工夫が必要であると考えた。

#### (4) 「特別の教科 道徳」(道徳科)の趣旨・内容を踏まえた授業の実施について

平成28年度からの熊本県の道徳教育の方向性の中に「趣旨・内容を踏まえた授業」という言葉が使われている。

ここでは、「特別の教科 道徳」(道徳科)の「趣旨」と「内容」をそれぞれの言葉の意味に基づいて整理することで、本県の目指す道徳の授業の在り方をより具体的に示すことにした。

##### 「特別の教科 道徳」(道徳科)の趣旨とは

道徳が教科化されるに至った社会的な背景や意図、これまでの道徳の時間の成果と課題を踏まえ、「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標に基づき、各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり、深めたり、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たすようにする。

##### 「特別の教科 道徳」(道徳科)の内容とは

小学校から中学校までの体系性を高めるために見直された内容項目を手掛かりに、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図る。

#### (5) 「熊本の心」の効果的な活用や指導方法の工夫改善について

本県では、第2期くまもと「夢への架け橋」教育プランの基本理念にある「郷土に誇りを持ち、夢の実現を目指す熊本の人づくり」のもと、道徳教育用郷土資料「熊本の心」の活用や、家庭・地域と連携した道徳教育を推進している。

本研究を進めるにあたって、この「熊本の心」を積極的に活用し、本県の「心の教育」の充実に資するよう研究内容を検討していくこととする。

#### 2 研究の視点

本教育センターの共同研究では、「主体的、対話的で深い学び」を充実するための手立てとして、「学びを引き出す」「学びを振り返る」「学びを支える」という3つの視点から授業を構成し、その有効性について検証を行っている。

道徳教育においては、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実現することが、「主体的、対話的で深い学び」を実現することになると考える。

本研究においても、この3つの視点から具体的な実践内容を絞り込み、検証していくこととした。

##### (1) 視点1「学びを引き出す」について

児童生徒の主体的に道徳性を育むための「学びを引き出す」手立てとして、「問い」の工夫がある。児童生徒のより主体的な学習展開を図るためにも、この「問い」の在り方が重要な鍵を握ると言っても過言ではない。「問い」とは、学習課題でもあり、問題でもあると捉えている。

授業では、学習の始めに児童生徒が自ら学びたいという課題意識や課題追求への意欲を高め、学習の見通しなどをもたせることが大切である。道徳科においても、それらを踏まえ、教材や児童生徒の生活体験などを生かしながら、一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉えることができるようにする必要がある。さらに、理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできるようにすることが必要である。

本研究では次の取組により児童生徒の多面的・多

角的な思考を引き出す手立てとする。

- ① 児童生徒が課題追求意識を持ち、道徳的価値を自分との関わりの中で深めることができるよう、学習全体を見通した「問い」を設定する。
- ② 学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫する。

また、具体的な道徳科における学習のイメージとしては、『『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について』（報告）の中で、質の高い多様な指導方法の例が以下のように示されている。

- ① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習
- ② 問題解決的な学習
- ③ 道徳的行為に関する体験的な学習

これらの指導方法の要素を参酌し、本研究では、読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れる授業構成により検証を進めることとした。

学習の流れについてのイメージは、図1のとおりである。



【図1】1時間の学習の流れのイメージ

## (2) 視点2「学びを振り返る」について

道徳科の指導にあたっては、児童生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実することが求められている。その際、様々な価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設けるとともに、児童生徒が多様な見方や考え方に接しながら、さらに新しい見方や考え方を生み出していくことができるよう工夫する必要がある。

このような道徳科における「学びの振り返り」を充実させるために、以下の取組を行う。

- ③ 自分の考えを多面的・多角的な視点から振り返ったり、互いの考えの異同を整理して、自分の考えになかったものを受け入れて生かすために、「思考ツール」を活用する。
- ④ 児童生徒自身がものの見方、考え方、感じ方などを確かめ、学習を振り返ることができるように、ワークシートを工夫する。

## (3) 視点3「学びを支える」について

道徳の時間は、児童生徒一人一人が、ねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間である。

しかし、児童生徒には、年齢相応の発達段階があるとともに、個人差も大きいことに留意し、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりや情報機器等の効果的な活用が必要である。

本研究を進めるにあたっては、「学びを支える」取組として、以下の取組を行う。

- ⑤ 児童生徒の実態に応じた視聴覚教材等を効果的に活用し、すべての児童生徒が道徳的価値について理解したり、自己の生き方を考えたりできるようにする。
- ⑥ 児童生徒が思考を深める重要な手掛かりとなるような板書の工夫を行う。

## 2 研究の実際

検証 1	小学校第 2 学年
主題名	みんなのために働こう C (小低 12) 勤労, 公共の精神
資料名	「火たきのしごと」
出典	道徳教育用郷土資料「くまものこころ」

### (1) 本主題に関する授業設計

#### ① ねらいとする内容項目について

人が生きていくには、仕事に対して誇りをもち、喜びを感じ、働くことの意義を自覚して、すすんで社会に役立つと心をはたかせることが大切である。働くことは、単に自分が生活していくためだけでなく、自分に課された社会的責任を果たすという意味においても重視する必要がある。働くことを通して、社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びも味わうことができる。

この時期の児童は、学級や家庭での仕事やお手伝いなどを喜んですることが多いが、苦労や責任を伴う仕事は敬遠しがちである。したがって、手伝いをしてほめられる喜びは知っていても、仕事をすることの社会的意義やその喜びを認識していることは少ない。そこで、地域に伝統的に受け継がれている神事の仕事を受け継ぎ、働くことの意義を自覚していく主人公の生き方に共感することを通して、日常の掃除などの仕事の意義を理解し、意欲的に働こうとする心情や態度を育てていきたい。

#### ② 児童の実態について

事前調査の結果、ほとんどの児童が「係の仕事は大切である」と答え、約 3 分の 2 の児童が「係の仕事をするのは楽しい」と答えた。また、実生活においても 1 人 1 役である係活動の仕事や給食当番等、頑張って取り組む事ができている。しかし、つい遊びを優先してしまったり忘れてしまったりしてしまい、友だちからの声かけで取り組む姿もまだ見受けられる。

また、仕事に対しての喜びや働くことの意義を感じている児童もいるが、「怒られるから」や「友だちから文句をいわれるから」「ほめられたいから」といった、まだ幼い考えの児童もいる。

道徳の時間に関する児童の意識を 12 項目の 4 件法で調査したところ、「道徳の時間に、これからの自分はどうしていきたいと考えている」と「道徳の時間

に、自分にとって大切なことが分かる」と感じている児童が多いことが分かった。また、ペアやグループといった少人数での活動を好む児童が多いという傾向も見られた。

一方、「話合いで、友だちの考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある」と「話合いで、自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする」という項目に課題が見られた。小学校低学年という発達段階もあるが、少人数の学習が自分の考えを話すことに留まり、互いの意見を受け止め、学び合うという活動にまでは至っておらず、様々な学習経験を通して、話合いの質を高めていくことが必要であると考える。

#### ③ 教材について

本教材は、道徳教育用郷土資料「くまものこころ」(小学校 1 年・2 年)に掲載されている。

鬼八伝説と聞き取りにより作成された、阿蘇霜宮神社の火炊神事に関する話である。霜宮神社の火炊神事は、2500 年以上地域の人々によって続いてきたとされている伝統的な神事である。「火炊乙女」になった 12、3 歳以下の女子児童が祖母などと共に、8 月 19 日から 59 日間火炊所にこもり、五穀豊穡や地域の生活の安定への願いをこめて火を炊き続ける。

地域に古くから伝わる火炊乙女をすることになった主人公よしこは、火炊きのつらさを味わいながらも、その仕事をする意義を少しずつ理解していく。仕事の意義を見だし、仕事の好き嫌いにかかわらず、みんなのために意欲をもって働こうとする心情や態度を育てるのに適した資料である。

### (2) 指導の実際

#### ① 本時のねらい

59 日間火炊所にこもり、火を炊き続けるよしこに寄り添い考える活動を通して、仕事の意義や働くことのよさに気づき、みんなのために働こうとする心情を育てる。

#### ② 課題研究と関連した取組

##### ア 視点 1 について

##### 【①の手立て】

児童の実態を考慮し、日頃の係や当番活動の様子を想起させ、児童と日常の生活場面を振り返りながら「問い」を設定していく。ねらいとする道徳的価

値に関わる「問い」を、次のように設定した。

当番や係の仕事をするとき大切なのは、どんな気持ちでしょう

この「問い」に対する児童の意見を聞いた後、授業の後半にどんな気持ちを加えることができるかという授業の見通しを持たせた上で、読み物教材を活用した学習に入るようにする。

**【②の手立て】**

また、道徳的価値に照らして自分の生活を具体的に見つめ、道徳的価値を実現するための目標を考えることができるよう、終末に「友だちからのメッセージ」を準備し、渡していく。

**イ 視点2について**

**【③の手立て】**

児童が中心発問を考える場面では、より多面的・多角的な視点から意見を考えることができるよう、大きめの付箋紙を一人に数枚ずつ準備し、記述させていく。

それぞれが書いた意見については、少人数のグループの中でホワイトボードに貼りながら交流する。グループ内の他者の意見で共感できるものについては、印を付けさせる。さらに、意見の異同を児童同士で整理し、まとめさせる。

**【④の手立て】**

児童が書いた付箋紙は、グループでの話合いの後に自分のワークシートに貼り、学習の感想をまとめる時に役立つようにする。

**ウ 視点3について**

**【⑤の手立て】**

教材の提示に当たっては、児童の発達段階を考慮し、紙芝居形式による読み聞かせを行う。また、すべての児童が集中して教材を聞くことができるよう、読み聞かせの場を工夫する。

**【⑥の手立て】**

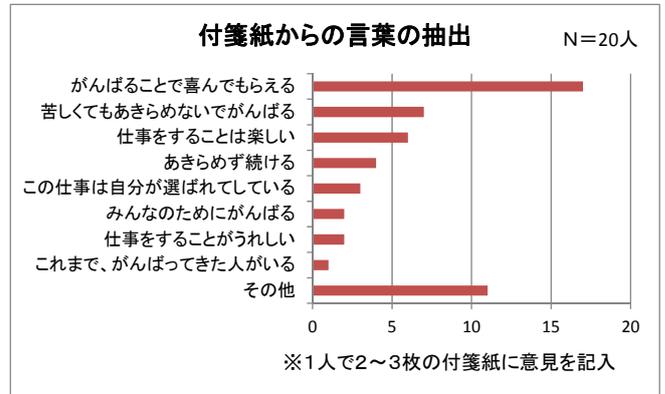
学びのUDの視点から、黒板とは別に『学習の流れが見える黒板』を用意する。「今は何をやる時間なのか」、「一人で考えるのか、班で考えるのか」「話し合う内容は何か」といった学習の流れをあらかじめ提示しておくことで、児童一人一人が安心して授業に臨めるよう工夫する。

**③本時の展開**

過程	主な学習活動
導入	<p>1 毎日やっている係や当番などの仕事について振り返る。<b>【①の手立て】</b>                      T：どんな係や当番活動の仕事がありますか。                      C：勉強。給食当番。お手伝い。etc                      T：どんな気持ちで取り組んでいますか。                      C：楽しい。一生懸命がんばる。                      T：時には「やりたくない」「面倒くさい」と思う時があるかもしれませんね。授業を通して、仕事をする時に大切にしたい気持ちを増やしていきたいですね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【道徳的価値に関わる「問い」】</b>                          当番や係の仕事をするとき大切なのは、どんな気持ちでしょう</p> </div>
展開	<p>2 「火たきのしごと」の話を聞いて話し合う。  <b>【⑤・⑥の手立て】</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(1) つらそうにしているよしこの気持ちを考える。                      T：火たきの仕事を始めたよしこさんは、初めどんな気持ちだったでしょう。                      C：きついなあ。 C：いやだなあ。                      C：遊びたいなあ。</p> <p>(2) 火たきの仕事を続けるよしこの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>よしこさんの気持ちが変わったのは、どんな気持ちからでしょう。</p> </div> <p><b>【③・④の手立て】</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">                         個人の考えをフリーカードに複数枚書く                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">                         グループで互いの意見を交流し、整理する                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; font-size: small;">                         学級全体でグループの考えを発表し、考えを深め合う                     </div> </div> <p>T：班で出てきた「いいな」と思う意見を紹介して下さい。                      C：町の人や野菜を作ってくれる人たちを喜ばせたいという気持ちです。                      C：みんなを喜ばせたいという気持ちです。                      C：前の人もがんばっていたから自分もがんばろうという気持ちです。                      C：きつかったけれど、励ましてもらってうれしいという気持ちです。                      C：ほめられたから、こたえたいという気持ちです。                      T：発表してもらった気持ちがあったから、がんばろうというやる気が出たんだね。</p>

展開	<p>3 学習を振り返り、仕事をする時に大切な心について考える。【①の手立て】</p> <p>T：「当番や係の仕事をするとき、これからどんな気持ちでしていきたいと思いますか。」</p> <p>C：役に立とうという気持ちだと思います。</p> <p>C：最後までがんばろうという気持ちです。</p> <p>C：続けてがんばろうという気持ちです。</p> <p>C：喜んでもらいたいという気持ちです。</p> <p>4 これまでの自分の行動を振り返り、これからの自分について考える。</p> <p>T：今日の学習を振り返って考えたことや、これから大切にしたいことをワークシートに書きましょう。</p>  <p>C：自分の仕事を最後までがんばろうと思いました。</p> <p>C：すぐに仕事に取りかかりたいと思いました。</p> <p>C：今まで嫌だなと思うこともあったけれど、みんなの役に立つようにがんばろうと思いました。</p>
終末	<p>5 友達の手紙を読む。【②の手立て】</p> <p>T：友達のがんばっているところを見つけて、手紙を書きましたね。友達からの手紙を渡しますから、読んでみましょう。</p>   <p>T：みんなの手紙の中からいくつか紹介したいと思います。(3通紹介)</p> <p>これからもお仕事をがんばっていきましょう。</p>

以下のような傾向が見られた。この言葉の広がりからも、児童が学習を通して、「勤労、公共の精神」という価値を多面的・多角的に見ていることが分かる。



また、「友達からのメッセージ」は、児童一人一人が大切に読んでいる様子が見られた。児童の記述には、次のような内容があった。

○お友だちや先生のことを考えてくばっているから、とてもやさしいなと思いました。

○プリントをくばる時に、みんなのじゃまにならないところにおいたりしているから、じょうずだと思います。

○あせをながしながら、いっしょうけんめいまどをピカピカにふいていましたね。

この「友達からのメッセージ」も、これまで自分が気付かなかった視点から働くことの意義を考えることにつながっていった。

### ② 視点2について

「学びを振り返る」という点に関して、意識調査の結果を以下に示す。

表1は、質問紙調査において検証授業前後の調査結果を示したものである。

【表1】 授業前後の児童の意識調査の結果（一部抽出）

変容が見られた質問項目	学習前	学習後
道徳の時間に、今まであったことを思い出して、その時の自分と比べながら考えている。	3.45	3.75
話合いで、友達の考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある。	3.10	3.60
話合いで、自分の考えと同じだと思ったり、自分の考えが変わったりする。	3.15	3.60
グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることがある。	3.55	3.75

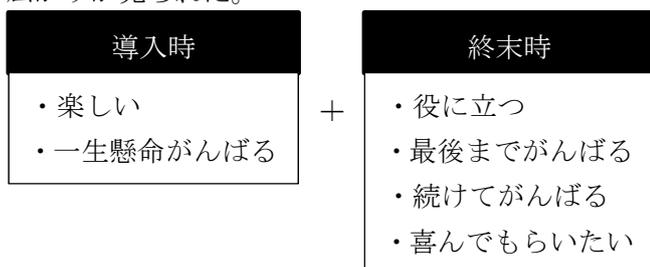
「話合いで、友達の考えと自分の考えを比べて聞いた後、はっとしたり、なるほどと思ったりするところがある」「話合いで、自分の考えと同じだと思ったり、自分の考えが変わったりする」の項目の伸

### (3) 検証結果と考察

#### ① 視点1について

児童の多面的・多角的な思考を引き出す手立てとして、学習全体を見通した道徳的価値に関わる「問い」を『当番や係の仕事をするとき大切なのは、どんな気持ちでしょう』と設定した。

導入時と終末時では、児童の意見に以下のような広がりが見られた。

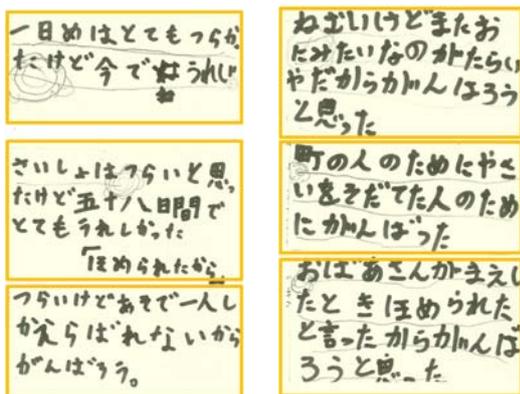


また、各自の付箋紙に書かれた言葉を集約すると、

びから、他者の多様な意見を受け止めるとともに、自らの価値観の再構築の手掛かりにしていることが推察できる。

また、「道徳の時間に、今まであったことを思い出して、その時の自分と比べながら考えている」、さらに「グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることもある」の質問項目の伸びから、思考ツールを活用し、児童自身がそれぞれの意見を整理していくという活動は、児童が自己を見つめ、道徳的価値について多面的・多角的に考えることに効果的に働いたと考えることができる。

さらに、グループで話し合う際に活用した付箋紙をワークシートに貼り直し、本時で学んだことを振り返ることで、授業で学んだこととこれからの生活についての課題や目標を考えることを結びつけることになった。



学習後の児童のワークシート

### ③ 視点3について

「学びを支える」手立てとして、紙芝居形式による読み聞かせと「学習の流れが見える黒板」を準備した。

この手立てにより、すべての児童が教材の内容を理解し、主体的に学習に取り組む上で効果的であった。

特に、「学習の流れが見える黒板」には、今どのような活動をする時間かを磁石で示すことで、児童が何度も黒板を確認しながら、自分たちで活動を進める有効な手立てとなった。グループ内では、互いに声をかけ合いながら、学習を進める様子も見られた。



### ④ 児童の意識の変容について

授業前の意識調査で、係や当番などの仕事に対して「大切ではない」「面倒くさい」「きつい」という受け止めをしていた児童Aは、授業後にどのような変容が表れるかを抽出して観察した。その結果、授業後には、以下のような記述が見られた。

学んだことは、最後まで続けるということです。先生が言う前にやろうと思った。

児童Aは、働くという道徳的価値について、自分との関わりで自らを振り返り、自分の責任を果たしていこうとする意欲へとつながっていったことが記述からも察することができる。また、授業後の意識調査でも、12項目中7項目で伸びが見られ、学習への意欲に向上の様子が見られた。

検証1 中学校第3学年  
 主題名 将来の働き方  
 C (中13) 勤労  
 資料名 「万田坑と共に」  
 出典 道徳教育用郷土資料「熊本之心」

#### (1) 本主題に関する授業設計

##### ① ねらいとする内容項目について

今日、職業や勤労に対する価値観が多様化する中においても、勤労は人間生活を成立させる上で、大変重要なものである。「勤労」とは、自分の務めとして心身を労して働くことである。勤労や奉仕を通して社会に貢献することを自覚し、充実した生き方を追求していくことで、一人一人の真の幸福につながっていく。

中学生の時期は、将来の生き方について自分の目的のためや、仲間と一緒にする仕事には意欲的に取り組むが、集団での仕事などは嫌う傾向にある。一方、中学3年生としては、自分の進路や職業について関心が高くなる時期である。そこで、ユネスコ世界文化遺産である万田坑でボランティアとして働いている方々の生き方を通して、勤労の尊さや意義について深く考えさせていきたい。また、勤労や社会奉仕の喜びが自分自身の充実感につながることを感じ取り、働くことへの理解と共に職業についての好ましい考え方を育てることは意義深いことであると考え、本主題を設定した。

## ② 生徒の実態について

本学級の生徒は、進路選択を前に、授業への意識は二極化しており、何事も一生懸命頑張ることを面倒だと思ふ生徒も少なくない。

将来就いてみたい職業を見つけている生徒が多い反面、まだ将来就きたい職業を見つけていない生徒も3割ほどいる。職業を見つけている生徒は、その夢に向かって日々の活動も一生懸命に頑張る傾向にある。

人は何のために働くのかという問いには、生活するため、お金を稼ぐためと答えた生徒が全体の半数近くいた。また、家族のため、生きていくためと答えた生徒も、お金を稼ぐことで家族を養ったり生活をしていくためだと答えている生徒が多い。一方で、誰かの役にたつため、仕事で何かを学ぶためと、他者のことや自分の成長のことを考えている生徒も数名いた。

将来どんな仕事に就いてみたいかという問いに対しては、自分の好きな仕事や楽しい仕事と答える生徒が多く、給料がたくさんもらえる仕事や楽な仕事、厳しくない仕事と答える生徒もおり、楽にお金を稼いで自分の好きなことをするために働きたいという傾向にある。

今回の授業では、勤労にはその人の「生きがい」であったり「充実感」を得るためでもあることに気づかせることで、将来の自分の生き方について深く考えることができるようにしていく。

## ③ 教材について

この資料は、国指定重要文化財であり、「九州・山口の近代化産業遺産群」の施設のひとつとしてユネスコの世界文化遺産に登録されている三池炭鉱旧万田坑について、ガイドを務めている方の話をまとめたものである。ここでは、炭鉱労働の厳しさと共に、労働に対する思いや、退職後もボランティアを続けている理由や願いをガイドの方の経験を通して語られている。

労働の大変さと共に労働によって仲間を守り社会が発展していくことについて考えさせることで、生徒一人一人が働くことの意義を感じ取り、自己実現を図りながら、社会の形成者として自らも労働や社会奉仕に取り組もうとする心情を培うことができる資料である。

## (2) 指導の実際

### ① 本時のねらい

万田坑で働いていた人々の思いやその後の生き方を通して、勤労の大切さを多面的・多角的に理解し、自分の将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献しようとする道徳的実践意欲を高める。

### ② 課題研究と関連した取組

#### ア 視点1について

##### 【①の手立て】

進路選択が迫る中学校3年の時期と事前アンケートから垣間見える生徒の曖昧な職業観から、ねらいとする道徳的価値に関わる「問い」を、生徒と共に導き、考えを深めていけるよう、以下のように設定した。

自分が将来働く時に、大切にしたい思いは何だろう

この「問い」に対して、教材「万田坑と共に」の描かれているガイドさんの生き方を多面的・多角的に考え、価値観の再構築を図っていく。

##### 【②の手立て】

教材で触れる「勤労」という道徳的価値と、その価値に基づいた自らの考え方や将来像とをより結びつけて考えることができるよう、地域の方の職業に対する思いをインタビュー形式でまとめ、生徒に視聴させる。地域の方々の職業に対する思いを知ること、働くことの意義を多面的・多角的に考える一助とする。

#### イ 視点2について

##### 【③の手立て】

教材のガイドさんの生き方から考えたことを元に、道徳的価値に関わる「問い」を考える中で、個人の意見を付箋紙に書き出し、グループ内で共有できるようにする。また、意見を出し合う上で、ホワイトボードを用いて各自から出される意見の異同を自分たちで整理することで、多様な価値観に触れることができるようにする。

##### 【④の手立て】

生徒の発達段階を考慮し、自己の生き方について見つめ、考えることができるよう、ワークシートに記入するスペースを十分確保する。

ウ 視点3について

【5の手立て】

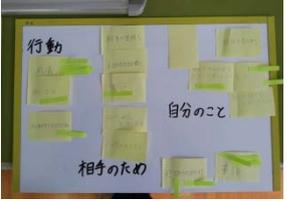
教材や地域の方、万田坑でガイドをされている方のインタビューの様子を生徒に提示するに当たっては、生徒の興味関心を高めると共に、より視覚的に内容の理解が進むよう視聴覚機器を活用する。教材の提示は、「熊本の心」広報テレビとして放映された映像を使用する。

【6の手立て】

1時間の思考の流れがすべての生徒に伝わり、終末にその流れを振り返りながら自らの考えをまとめるよう、構造的な板書計画を立てる。

③本時の展開

過程	主な学習活動
導入	<p>1 アンケートの結果から、自分の就きたい仕事について振り返る。【1の手立て】</p> <p>T：将来就きたい仕事についてアンケートをした結果を紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きなことを生かした仕事(9人)</li> <li>・楽しい仕事(5人)</li> <li>・人のためになる仕事(3人)</li> <li>・給料がたくさんもらえる仕事(2人)</li> <li>・厳しくない仕事</li> <li>・楽な仕事 etc</li> </ul>  <p>T：近い将来仕事に就くことになる人が多くなると思います。その時、どんな気持ちで働いていきますか。</p> <p>※各自、無言で考える時間を確保する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【道徳的価値に関わる「問い」】</p> <p>自分が将来働く時に、大切にしたい思いは何だろう。</p> </div>
展開	<p>2 資料DVD「万田坑と共に」を見て考える。</p> <p>【5の手立て】【6の手立て】</p> <p>(1) 資料の前半から、万田坑で働く人々の気持ちを考える。</p> <p>T：炭鉱で働く人達は、どんなことを考えながら働いていたのだろう。</p> <p>S：心配。暗い。怖い。暑い。息苦しい。膝や腰が痛い。 etc</p> <p>(2) 資料の後半から、ガイドさんの言葉の意味や万田坑の昔を伝える気持ちについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「自分の仕事一つ一つが、世のため人のためになるんだ」という言葉には、どのような思いがこめられているのでしょうか。</p> </div> <p>※ワークシートに記述した後、他の生徒と意見を交流する。</p> 

展開	<p>S：万田坑で働くことに誇りを持っている。</p> <p>S：万田坑で働くことに、胸を張りたい。</p> <p>S：働くことに前向きな気持ち。</p> <p>S：自分のがんばりが、日本のためになる。</p> <p>S：他の人たちにも伝えてほしい。</p> <p>3 ビデオレターを視聴し、自分自身の中にある勤労観を見つめ直す。【2の手立て】</p> <p>T：みんなの身近な人たちは、どんな気持ちで仕事をされているのでしょうか。</p>   <ul style="list-style-type: none"> <li>・寮で食事を用意して下さっている方</li> <li>・農業をされている方</li> <li>・地域の保育園で保育士をされている方</li> <li>・介護士として高齢者のお世話をされている方</li> </ul> <p>T：いろんな人たちの仕事に対する考え方を知って、皆さんは自分が将来仕事をする時に、どんな気持ちを大切にしたいと思いますか。</p> <p>【3の手立て】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①付箋紙に自分の考えを書く。</li> <li>②グループで意見を交流する。</li> <li>③出された意見の異同を整理する。</li> <li>④他のグループの意見を見て回り、自分たちでは気付かなかった意見に着目し、マークを付ける。</li> <li>⑤他のグループの意見を参考にして、再度グループ内で意見を交流する。</li> </ol>  
	<p>S：同じ仕事でも、向上心を持つことが大切だ。</p> <p>S：ポジティブに仕事をする。</p> <p>S：自分だけでなく、他の人も幸せにする気持ちが大切だ。</p> <p>S：礼儀も大切じゃないかと思います。</p> <p>4 自分の将来の生き方について考えを深める。</p> <p>【4の手立て】</p> <p>T：あなたは将来どんな思いを大切にしたいか、感じたことや考えたことを書きましよう。</p>
終末	<p>5 万田坑のガイドさんの動画を視聴する。</p> <p>T：万田坑のガイドさんの話を聞いてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>万田坑に来てくれた方に、当時の人たちの思いが少しでも伝えられるように、ガイドの仕事頑張っています。</p> </div> 

(3) 検証結果と考察

① 視点1について

『自分が将来働く時に、大切にしたい思いは何だろう』という道徳的価値に関わる「問い」に対して、教材を基に考えを深める学習を行った結果、生徒の考えが多面的・多角的に広がったことがワークシートの記述から伺うことができた。

学習前	・生活のため	・生きていくため
	・お金を稼ぐため	・誰かの役に立つため
	・家族を養うため	・自分の夢のため
	・生きていくため	・何かを学ぶため
	・自分のため	



学習後	<b>※ワークシート内の生徒の言葉を抜粋</b>	
	・向上心を持って仕事をする	・人への思いとやる気を持って仕事をする
	・仕事に誇りを持つ	・みんなが幸せ(笑顔)になるような仕事
	・他の人のために役に立つ仕事	・やりがいのある仕事
	・回りの人に感謝しながら仕事をする	・ていねいに仕事をする
	・あきらめないで取り組む	・自分の長所を生かした仕事
	・家族のために自分にできることをする	・やさしさを大切に仕事をする
	・自分の仕事に責任を持つ	・礼儀を大切に仕事をする
	・自分の心や気持ちを大切に仕事	等

生徒の考えに多面的・多角的な広がりが見られるワークシート例の一部を以下に示す。

今日の授業を通して思ったことは、自分が楽しめるような仕事をするのも大切だし、その仕事することによって、 <u>誰かを笑顔に、幸せにできるような仕事ができたらいいな</u> と思いました。・・・
将来、好きな仕事をするのも大切だけど、 <u>人のためになることを大切にしていきたい</u> です。・・・人のためになることをしている方が、もっと仕事が楽しくなるし、 <u>向上心を持ってすることができる</u> と思いました。

② 視点2について

「学びを振り返る」という点に関し、意識調査の結果を以下に示す。

表2は、質問紙調査において検証授業前後の調査結果を示したものである。

【表2】 授業前後の生徒の意識調査の結果（一部抽出）

変容が見られた質問項目	学習前	学習後
話合いで、友だちの考えと自分の考えを比べながら聞いている。	2.92	3.22
話合いで、自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする。	3.13	3.43
グループで話し合うことで、自分の考えがより深まることがある。	3.29	3.35

学習前と学習後では、上表の項目に変更が見られた。道徳的価値に関わる「問い」に対して、教材や身近な方々の「働く」ことについての声を通して、様々な視点から自らの考えを付箋紙にまとめ、交流し整理する活動を行った。

道徳的価値の理解を基に、「友だちの考えと自分の考えを比べながら聞く」ということは、『自己を見つめる』という点に通じる。また、「自分の考えと同じだなと思ったり、自分の考えが変わったりする」ということは、『物事を広い視野から多面的・多角的に考えている』という部分で成果があったと捉えることができる。さらに、「自分の考えが深まることがある」というのは、『人間としての生き方について考えを深める』という部分に当たると考えられる。

これらのことを総合すると、今回の視点2の手立てでは、道徳科の目標に示す学習活動を進める上で効果的であったと推察することができる。

また、ワークシートの記述を見ると、生徒一人一人が自らの「勤労」という価値観と向き合い、これからの課題や目標をまとめているところから、記述する部分を絞り込んだワークシートも、生徒が道徳的価値を深めるうえで効果的であったと考える。

③ 視点3について

教材提示、地域の方のインタビュー、万田抗のガイドさんの話と、授業のポイントとなる部分で視聴覚機器を活用した。生徒が食い入るように画面に集中する姿があり、内容理解が進んだことで、多面的・多角的な思考を促したものと推察する。



さらに、板書も生徒の意見を整理してまとめたものが残っており、それらの言葉から自らの意見を作り上げていった様子も、ワークシートより確認できた。



#### ④ 生徒の意識の変容について

生徒Bは、事前に行った意識調査の中で、「将来、なりたい職業はない。楽をしてお金を稼ぎたい。」という考えを持っていた。本時の学習を通して、生徒Bの意識にどのような効果が見られるかを抽出して調査した。

学習後の生徒Bの「働く」ことに対する考えをインタビューしたところ、以下の回答があった。

自分は、今日の授業をやって、自分が今まで仕事について何も考えていなかったんだと思いました。今までは、楽な仕事やお金がいっぱい入る仕事がしてみたかったけど、今日の授業を受けて、グループでも「人のために」という言葉がたくさん出てきて、自分も人の役に立つ仕事がしてみたいと思うようになりました。

ワークシートの記述にも、同様の内容が書かれている。この生徒の意識の変容からも、それぞれの視点での手立てが、生徒Bにも有効に働いたことが推察できる。

### 3 研究のまとめ

今回の研究は、小学校は平成30年度、中学校は31年度から完全実施される道徳の教科化に備え、本県の取組の方向を見据え、特に各学校から問い合わせが多い「児童生徒の多面的・多角的な思考を促す『特別の教科 道徳』(道徳科)の趣旨・内容を踏まえた授業の在り方」を模索した一事例である。

本センターの研究の視点である「学びを引き出す」「学びを振り返る」「学びを支える」の3つの柱に沿って実践事項を絞り込み、読み物教材を活用しつ

問題解決的な学習を取り入れる授業構成により検証を進めてきた。

本研究に関わる検証授業を参観した教員からの感想は、以下の通りである。

- 「熊本の心」の教材の内容と自分たちの日常とを照らし合わせて考え、本時のテーマのもと、多面的・多角的思考ができていたと思う。
- 多面的・多角的思考という点において、付箋紙を使って自分の考えを出させ、ホワイトボードで班内での意見交換ができていましたし、その後も全体の発表に続いており、テーマに沿った授業展開であったと思う。
- 思考ツールの活用も、児童がよく活用していたのでよかった。初めは抵抗があるものでも、上手く活用していくと効果的なことが、よく分かった。今後の授業改善に取り入れたい。
- グループ活動を入れることで、児童が主体的に学ぶことができたと感じた。また、最後に友だちからの手紙があることで、児童同士お互いが役立っていることに気づき、更にやる気が出たような気がした。対話的な学びがしっかりできていた。
- 「火たきのしごと」という子どもたちにとっては少しイメージのつかない内容を、身近な係や手伝いについて考えるという自分のこととして振り返らせ、仕事の大変さと共に大切さを学ぶ授業だったと思う。
- 「万田抗と共に」の資料DVDを見せるだけでなく、生徒に馴染みのある地域の方、保護者のビデオを見せたことで、多面的・多角的思考が促されたと思う。資料と生徒を結びつける工夫がしっかりとされており、「熊本の心」がより活用されていたと思う。
- いろいろな考え、意見に触れる場が設定しており、授業の最初と最後で生徒の考えの変容が見られたことが、授業展開や言語活動がテーマに沿っており、有効であることを裏付けていると思う。
- 「勤労」「将来、働く時に大切にしたいこと」の道徳の授業として、モデルになるような授業だったのではないかな。
- グループで話し合う際の視点が明確で、生徒が自分の考えをしっかりと伝えていた。
- いろいろな考えに気付くために、班でまとめたホワイトボードを見て回り、「いいねシール」を貼る活動はよかった。温かい雰囲気が見られた。自分たちで課題解決をしていこうとする姿が見られた。
- KJ法や班別活動で取り組んでいたことが、とても効果的であったと思う。しかし、終末に自分の意見を発表したり、共有する時間がなかったのはもったいないと感じた。

参観者の感想から、この検証授業が、児童生徒がねらいとする道徳的価値の理解の基に、多面的・多角的に思考しながら、自己の生き方について考えを深めるものとなっていたことが分かる。

しかし、冒頭にも述べたように、学習指導要領には「多面的・多角的に考える」授業の在り方については言及されておらず、故に多様な指導方法の実践研究とその蓄積が求められてくる。

今回示した学習の流れは、あくまで一実践事例に

過ぎない。だからこそ、これまで積み上げられてきた指導上の蓄積を再度捉え直し、その上で質の高い多様な指導方法に関して提案していく必要があると考える。

また、道徳の評価の在り方については、今後さらに注目されてくることだろう。道徳科における評価については、「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子」を把握することが明示されている。今回の研究の中で、児童生徒の1時間の学習状況の変化については見取ってきたが、一定のまとまりの中で継続的に児童生徒の変容を観察するという部分までは至っていない。この部分は、今後の大きな課題として考えていきたいと思う。

次期学習指導要領改訂の流れを踏まえつつ、今回の研究で得られた成果と課題を、次年度の研究へとつないでいきたい。

#### 《引用・参考文献》

- ・ 文部科学省 (2015)  
『小学校学習指導要領解説 総則編 (抄)』
- ・ 文部科学省 (2015)  
『中学校学習指導要領解説 総則編 (抄)』
- ・ 文部科学省 (2015)  
『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
- ・ 文部科学省 (2015)  
『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
- ・ 文部科学省 (2008)  
『小学校学習指導要領解説 道徳編』
- ・ 文部科学省 (2008)  
『中学校学習指導要領解説 道徳編』
- ・ 文部科学省 (2013)  
文部科学省 (2013) 『今後の道徳教育の改善・充実方策について (報告)』
- ・ 中央教育審議会 (2014)  
『道徳に係る教育課程の改善等について (答申)』
- ・ 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 (2016)  
『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について』
- ・ 文部科学省 (2016)  
『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』
- ・ 熊本県教育委員会 (2012)  
道徳教育用郷土資料「くまもとのこころ」小学1・2年
- ・ 熊本県教育委員会 (2012)  
道徳教育用郷土資料『熊本の心』中学校